

経営比較分析表（令和4年度決算）

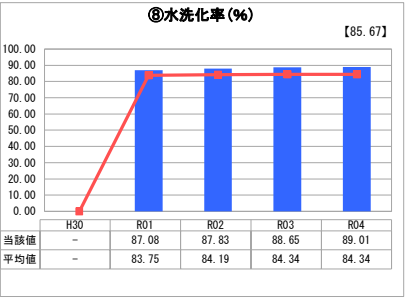
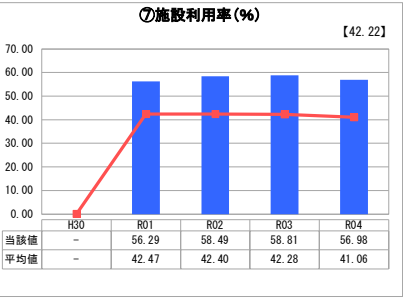
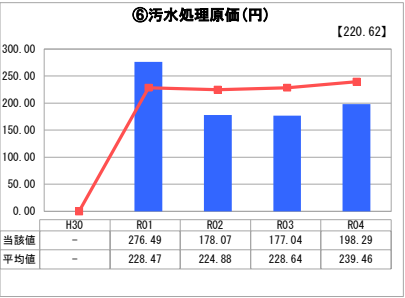
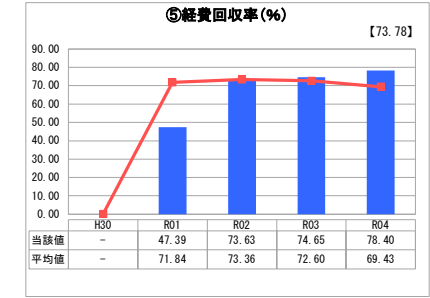
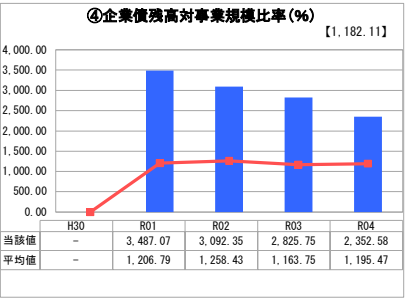
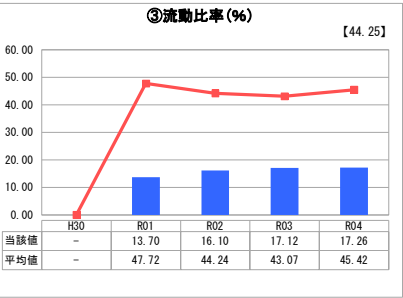
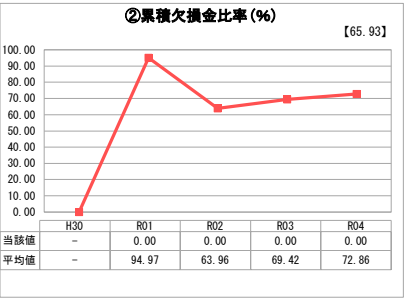
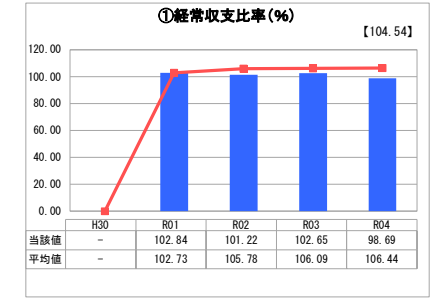
石川県 中能登町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	57.35	97.32	99.28	3,300

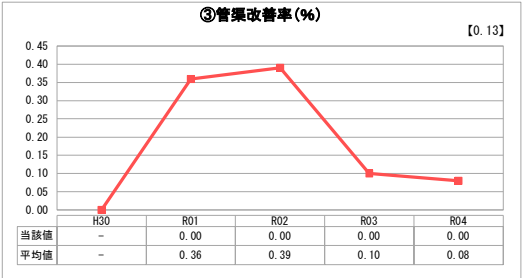
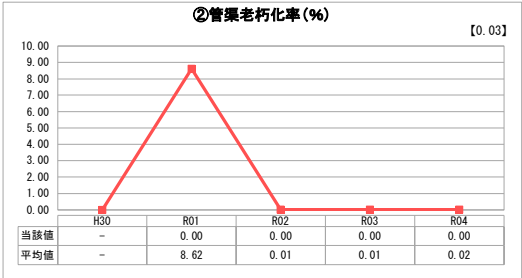
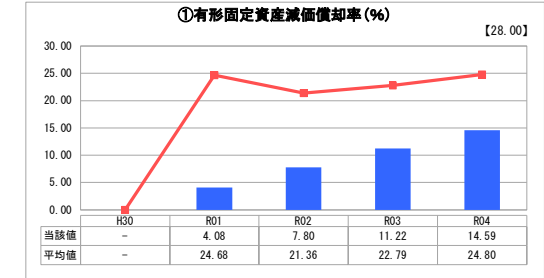
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
17,119	89.45	191.38
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
16,526	7.51	2,200.53

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
[] 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
今期は100%を下回ってしまいましたが、使用料の改定を行ったことで、微減でとどまった。経常収益には本来使用料で賄わなければならない基準外繰入金も含まれていることから、引き続き経営改善に努めることとしている。

③流動比率
流動負債の大半を占める企業債の償還金に対し、不足する財源を一般会計繰入金や下水道事業資本費平準化債等で補っている状況である。

④企業債残高対事業規模比率
これまで急速な整備を進めてきたことにより多額の企業債残高を抱えている状況ではあるが、現在、償還のピークは向かえたものの、今後も減少していく見込みである。

⑤経費回収率
使用料の改定により収入が増加したため、状況は改善傾向にある。今後も汚水処理費の削減に努めることにより経費回収率の向上を図る。

⑥汚水処理原価
類似団体と比較して低い状況となっているが、今後も人口減少による有収水量の減少が見込まれることから、水洗化率の向上と維持管理費の削減に努める必要がある。

⑦施設利用率
類似団体と比較して高い状況となっているが、今後の汚水処理人口の減少を踏まえ、適切な施設規模となるよう統廃合事業を進めていく。

2. 老朽化の状況について

年々老朽化する施設が増加傾向にあることから、今後も施設の統廃合事業や改築更新事業を計画的に進めていかなければならない。

また、管渠については耐用年数に近いものはない状況である。

全体総括

これまでの整備事業に伴う莫大な企業債残高を抱えていることで、償還金が支出の大部分を占め、経営を圧迫している。

このため、使用料の改定により収益的には改善のきざしはみられるが、今後も包括的民間委託や計画的な建設改良事業などによる維持管理費及び減価償却費の縮減に努め、経営改善を図ることとしている。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。